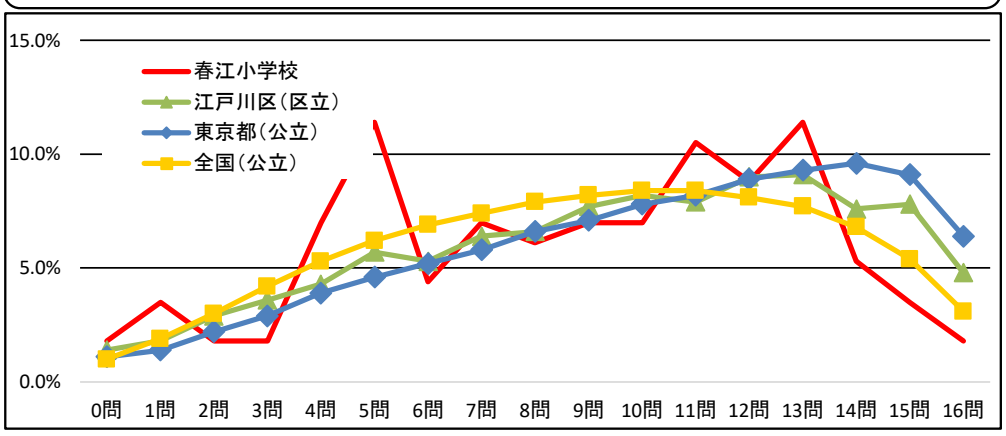
令和8年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【算数】春江小学校　別添資料②－2

正　答　数　分　布

平均正答数

春江小学校：8.8問　　江戸川区（区立）：9.6問

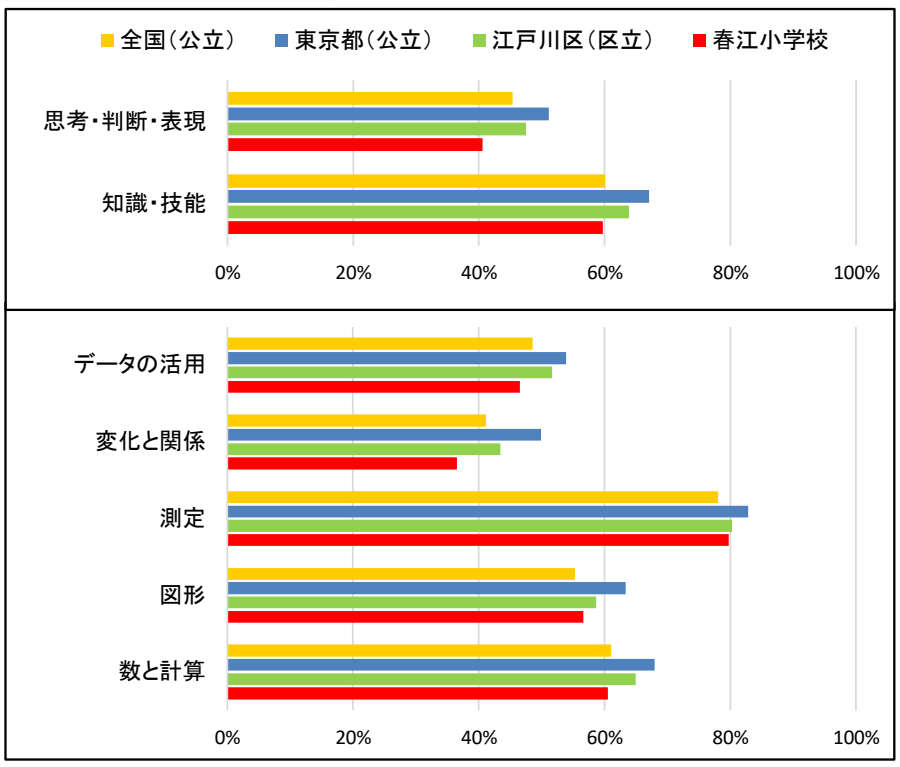
東京都（公立）：10.1問　　全国（公立）：9問



【平均正答率の差】

春江小学校	55%
江戸川区（区立）	60%
東京都（公立）	63%
全国（公立）	56.4%
都との差（ポイント）	−8.0

「領域別」の結果

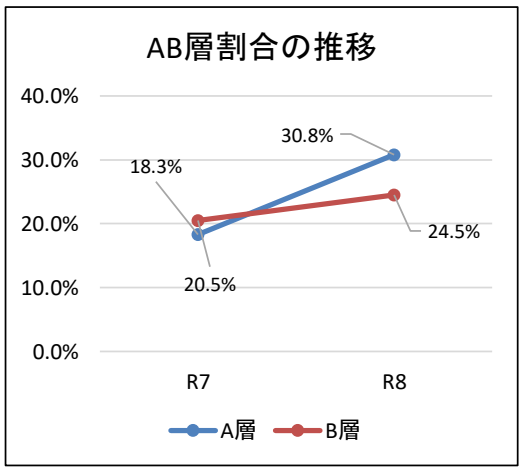


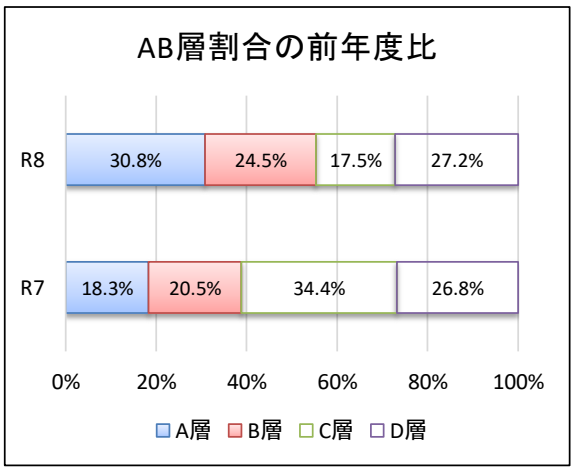
四　分　位　に　お　け　る　割　合　（　都　全　体　の　四　分　位　に　よ　る　）

上位 ◀――――――――――▶ 下位

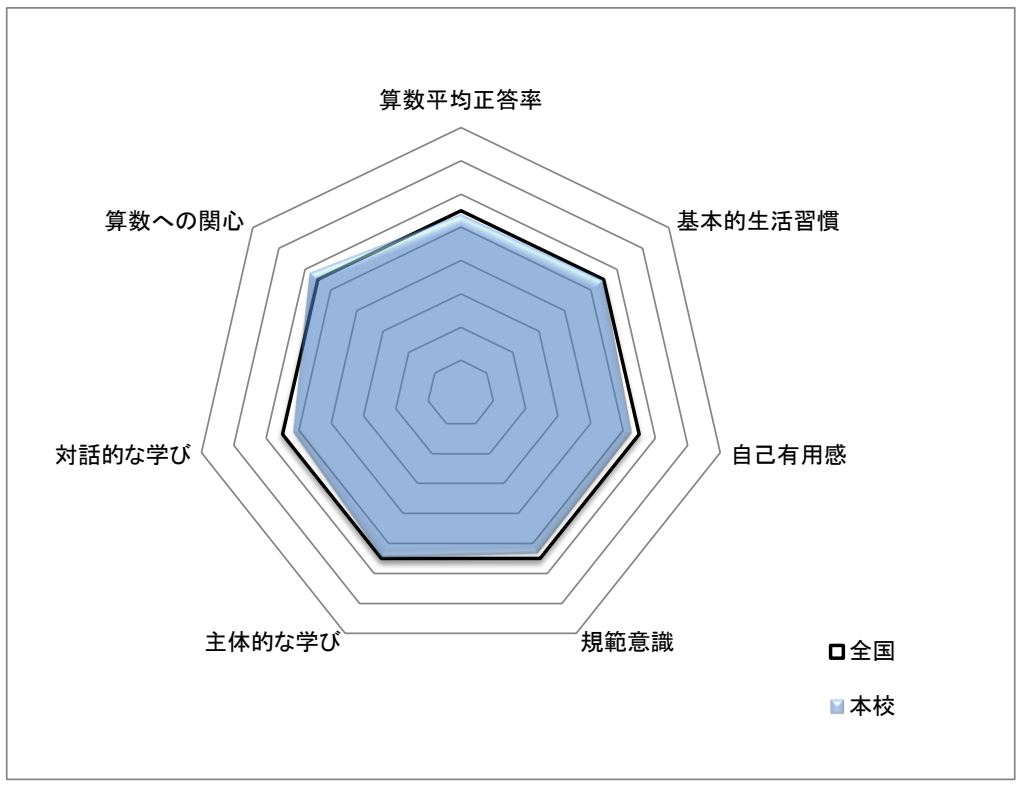
算　数	A層	B層	C層	D層
	12～16問	11～9問	6～8問	0～5問
春江小学校	30.8%	24.5%	17.5%	27.2%
江戸川区（区立）	20.2%	26.0%	28.9%	25.0%
東京都（公立）	43.3%	23.1%	17.6%	16.1%
全国（公立）	31.1%	25.0%	22.2%	21.6%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・算数の平均正答率は、高くないものの、算数への関心は全国平均と比較し、高い。
・自己有用感、規範意識、主体的な学び、対話的な学びについては、全国平均をやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

・保護者会や学年だよりなどで、学習内容や身に付けさせたいことを共有し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。
・家庭内での仕事を分担し、仕事をしたら、子供をほめることで、子供の自己有用感を育てていくことに協力してもらう。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
・AB層の割合は、令和7年度と比較し、上回っている。今後も自力解決の場においては、様々な方法で問題解決学習に取り組ませていく。また、発展的な問題にも自ら取り組ませていく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・校内研究の充実　（わかる、できる、楽しい、もっとやりたい）を図る。
・ICTを効果的に活用した授業改善を図る。
・教科担任制による指導（4～6年）・校内研修（春江塾）を実施する。
・ねらいに即したまとめ、振り返りの実施する。

・基礎学力の保障

・ミライシードを積極的に活用する。（授業、朝学習、家庭学習）
・東京ベーシックドリル診断テストを年間3回実施する。
・江戸川区学力定着度調査の活用（4、5年）

・学習習慣の確立

・江戸川っ子study week!での　学習習慣の確立を図る。
・家庭との連携・SNS学校、家庭ルールの徹底を図る。

・AB層の育成

・算数少人数指導においては、知識・技能はもちろん、思考力・判断力・表現力等の向上を図るために、数学的活動をより工夫し、児童一人一人の主体的な学びを促していくことが大切である。前時の振り返りと既習事項の定着を随時確認し、課題に取り組んでいく。